

kanamoto ■ カナモトエグザミネー examiner

株主の皆様ならびに投資家の皆様へ

kanamoto

kanamoto

kanamoto



金貨建機

金貨建機

金貨建機

金貨建機

金貨建機

金貨建機

金貨建機

vol.52

第46期(2010年10月期)第2四半期号



2Q	2010.2	ナラサキリース株式会社、青森ナラサキレンタルの吸収合併について発表	
		タームアウト型リボルビング・クレジット・ファシリティを設定	
		IRフォーラム2010大阪に出展	
	2010.3	第46期(2010年10月期)第1四半期決算発表	
		東証IRフェスタ2010に出展	
		カナモト夢の大3月祭を開催	
		ラジオNIKKEIの投資家向け番組「夕焼けマーケット」に出演	
		【札幌】上場会社合同説明会に参加(札幌証券取引所)	
	2010.4	【札幌】個人投資家説明会を実施(日興コーディアル証券)	
		入社式／新人研修	
		サンクスフェア2010 釧路・北見(4/17、18)を皮切りにスタート	

3Q	2010.5	平成22年10月期業績予想修正について発表	
	2010.6	第46期(2010年10月期)第2四半期決算発表	
		サンクスフェア in 北上営業所を開催	
	【東京】第46期第2四半期決算説明会を実施(アナリスト協会)	決算発表の翌週6月7日に機関投資家向け説明会並びに1on1を開催しました。取締役執行役員経理部長の卯辰伸人から第2四半期の決算概要や通期見通しについて、社長室広報担当課長の高山雄一から建機レンタル業界の概況やカナモトの海外展開などについてご説明いたしました。	
	サンクスフェア:苦小牧・山形・長岡・大館の各営業所で開催		
	ラジオNIKKEIの投資家向け番組「夕焼けマーケット」に出演		
	2010.7	サンクスフェア:静内・いわきの各営業所で開催	
		サンクスフェア in 岩見沢 7/24(土)	
		サンクスフェア in むつ 7/24(土)~25(日)	

凡例 IR関係 事業関係 イベント KE51 関連情報をカナモトエグザミナーVol.51に掲載
 ※今後のスケジュールにつきましては実施日を記載

とってもいいモノ・読者プレゼント

前号・前々号とゴルフのグリーンマーカーを読者プレゼントにしましたら、カナモト坊やのフィギュアはどーしたとのご意見をいただきました。温存しすぎてました。すみませんでした。ということで、今回もカナモトの動く広告塔になっていただける方、大募集です。携帯につけるには大きすぎますが、胸ポケットに入れると坊やが飛び出でて、注目を独り占めできます。できましたら、カバンにつけていただいたりすると、当選された方がカナモトの動く広告塔に(失礼!)。知名度アップに、皆様のご協力をお願いします。そうそう、なかなか当たらないぞ、もっと増やせとのご意見もございましたので、今号は大盤振舞いしてしましましょう。抽選で100名の方にお贈りします!

ご応募の締め切りは8月13日(当日消印有効)です。
 なお、当選の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

(写真はほぼ実物大です)



Feature

読者の皆様、いつもアンケートをご返送いただきありがとうございます。皆様からいただいたご要望にお応えして、今回は「レンタルの特長とメリット」、そして「建機レンタル業界の動向」をご紹介します。

What is Rental? レンタルの特長とメリット

レンタルとリースの違いは？

リースは、厳密には「ファイナンス・リース」「オペレーティング・リース」といい、モノを買う資金をリース会社を通じて調達して、中長期間にわたってリース料という形で返済する方式のもの。これに対して、レンタルとはユーザーの目的に応じたモノを、必要な期間だけ「日単位」で借りるシステムのことです。リースにくらべて、レンタルなら台数を増したり減らしたり、大きさを変更したりと融通が利くので「ユーザー本位のサービス」といえるでしょう。ちなみに、大型クレーン車など特殊な免許が必要なものについては、オペレータ付きの「チャーター」が一般的です。

レンタルを利用するメリットとは？

レンタルは「必要なモノを」「必要な時に」「必要な数だけ」確保できるサービス。ユーザーにとってさまざまなメリットがあります。

- ① 建機の購入代金などの設備投資費用を、最大限に軽減できる
- ② 先進機能を搭載した機種を、いつでも調達・使用できる
- ③ 建機の保管場所を確保する費用・手間ともに一切不要
- ④ 建機の維持管理などのメンテナンスは貸主がその一切を負担（オイル・消耗品は除く）
- ⑤ 毎月の減価償却や固定資産税・保険料などの費用発生にともなう煩雑な経理処理が不要

これら数々のメリットが、日本でレンタル化が進んでいる理由となっています。

■レンタルとリース、チャーターの特徴

	リース	レンタル	チャーター
契約期間	長期（主に年単位）	短期（日単位）	短期（時間単位）
貸出対象	特定の借主	不特定多数	不特定多数
メンテナンス費用	借主側の負担（原則）	貸主側の負担	貸主側の負担
貸出側の在庫	不要	大量の在庫が必要	ごく少数でも可能
オペレータの有無	なし	なし	あり（付き）
主な取扱商品	電話、コピー機、パソコン、パソコン周辺機器、医療機器、介護用品、自動車、建設機械、工作機械、航空機、タンカー etc.	DVD、CD、什器備品、パソコン、パソコン周辺機器、医療機器、介護用品、自動車、建設機械、工作機械、仮設機材、土地・建物 etc.	飛行機、バス、ビル工事用大型クレーン、クレーン車 etc.

Industry Trend 建機レンタル業界の動向

加速する事業者の集約化

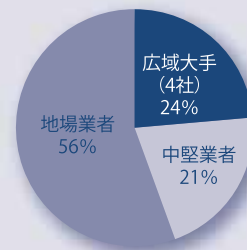
建機レンタル業界の市場規模は建設総投資の約2.5%程度といわれています。2010年度の投資額は38兆5,100億円と想定されており、建機レンタル業界の売上規模は約1兆円内外になります。そして建機レンタル業を営む企業は全国に約2,000社あり、当社を含む広域大手4社と中堅業者、地場業者に大別されます。右の円グラフのとおり業界の大半を占めるのは地場業者で、ここ数年業界再編が加速しています。

業界再編による当社のメリットは

建機レンタル事業を取り囲む経営環境は、公共事業予算の減少や、昨今の事業仕分けなどによって、原価意識が一層高まり、建機のレンタル化が進むなど追い風もあるのですが、一方で、レンタル業者同士による価格競争もまた、激化しています。

また、レンタル事業は常に良質なレンタル資産をお貸出するために、毎年多くの設備投資が必要で、資金力、信用力による企業の峻別が始まっています。そこで、カナモトでは、地場で確固とした営業基盤を築いている地場業者と友好的な業務提携、M&A戦略を進めることによって、国内シェアの拡大を図っています。

■建機レンタル業界の売上構成比



出典：経済産業省「特定サービス実態調査」、各社の発表データから算出

次号「kanamoto examiner vol.53」の当コーナーでは、カナモトの海外展開についてご紹介します。

第46期(2010年10月期)第2四半期決算財務ハイライト (当社グループ連結決算)

■事業部門別売上高および売上比率



93.3%：建設関連事業 34,654百万円

グループ会社を一体化した提案型営業などの積極的な展開に加えて、新型省エネ機を
増強するなど建機レンタル資産構成の再構築・適正化を図り、各地で地域シェアを伸長
させるべく努めた結果、売上高は対前年同四半期比15.4%増となりました。

5.7%：鉄鋼関連事業 2,129百万円

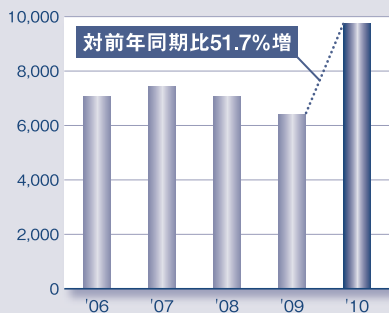
北海道内の鉄鋼製品需要は、建機レンタル同様に経済対策関連以外は極めて少なく、
建築資材の取り扱いを強化するなど実需確保に努力いたしましたが、売上高は対前年同
四半期比8.9%減となりました。

1.0%：情報通信関連・その他事業 358百万円

企業の開発関連費の縮減により、パソコンレンタルの顧客数が減少したものの、技術者
派遣事業が企業の研究開発事業の回復傾向もあり順調に推移したこともあり、部門全
体の売上高は対前年同四半期比57.8%増となりました。

■建機レンタル地域別売上高推移(連結) グラフの単位:百万円

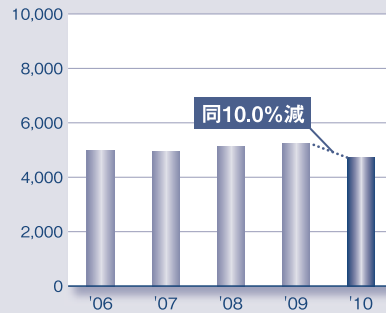
北海道地区



東北地区



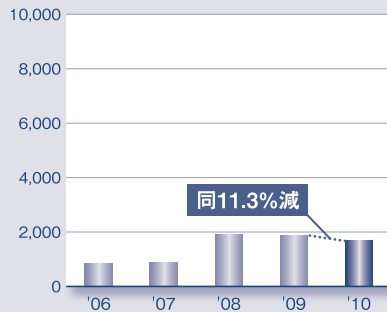
関東地区



近畿中部地区



九州沖縄地区



連結レンタル売上高合計
の対前年同期比は13.7%
増となりました。

売上高・営業利益・経常利益・当期純利益・
総資産・純資産の推移グラフは、8～9ページ
に記載しています。

第46期第2四半期事業報告書

[2009(平成21)年11月1日から2010(平成22)年4月30日まで]

●連結経営成績

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期(当期)純利益 (百万円)	EPS (円)
46期第2四半期	37,142(14.0)	3,195(246.8)	2,924(268.4)	1,515(-)	46.15
45期第2四半期	32,590 (-)	921 (-)	793 (-)	△143(-)	△4.38

●通期(2010年10月期)連結業績予想

今回修正予想 (2010年5月28日発表)	67,300(5.4)	1,340(875.8)	730(-)	330(-)	10.04
前回発表予想数値 (2009年12月4日発表)	67,100(5.1)	1,150(737.5)	710(-)	110(-)	3.35

(注1)売上高、営業利益、経常利益、四半期(当期)純利益における括弧内の数字は、対前年同四半期増減率(%)を示しております。

(注2)2009年12月4日発表の第46期通期の業績予想について、2010年5月28日に修正を発表しました。

(注3)45期は四半期報告制度の適用初年度であり、44期までと適用される会計基準や用語、様式および作成方法に関する規則等が異なるために対前年同四半期増減率は「-」を記載しています。

[経営環境]

当社グループの第2四半期の日本経済は、欧米では消費の低迷が続きましたが、中国などアジア経済拡大の恩恵を受け外需主導の景気回復が裾野を拡大させ、大手製造業を中心に企業収益は改善を見せました。また、エコカー減税やエコポイント制度などの消費刺激策も一定の効果を表し、全体的には緩やかな回復を示しました。

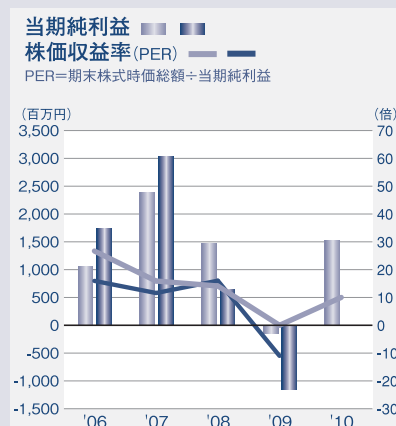
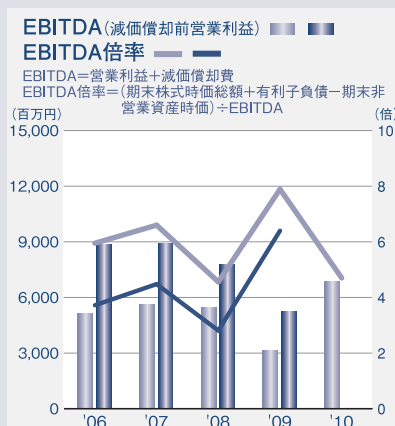
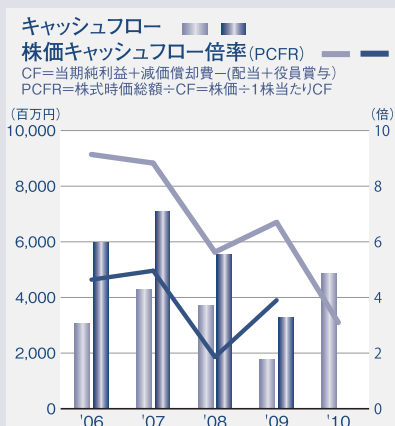
しかしながら、サービス、流通産業などを中心にデフレ化が一層進

み、民間の設備投資も昨年的大幅調整の反動による循環的な戻りはあるものの、設備過剰感は引き続き残るなど、景気の本格的回復は見込めない状況にありました。

建設業界にあっては、国内において民間建設需要が引き続き低迷する一方、経済対策関連の特需が地方部を中心にあつたことからやや一服感が保たれました。また、中小業者向けの金融対策も奏功して倒産件数も従来ペースから鈍化する傾向にありました。

グラフで見る5年間(連結)

■ = 第2四半期累計(中間) ■■ = 期末 ■■■ = 第2四半期累計(中間) ■■■■ = 期末



09年10月期第2四半期累計期間のPERは、当該期間に純損失を計上したため、0で表示しています。

【第2四半期の累計連結業績】

当社グループの平成22(2010)年10月期第2四半期連結累計期間の業績につきましては、引き続き厳しい収益環境でありましたが、前年同期間に比べ全般的に建機レンタル需要がやや改善されたこと、中古建機市況が比較的早期に回復したことなどから、連結売上高は371億42百万円(前年同四半期比14.0%増)となりました。

一方、利益面も、連結営業利益は31億95百万円(同246.8%増)、連結経常利益は29億24百万円(同268.4%増)でした。また、連結四半期純利益は15億15百万円(前年同四半期は四半期純損失1億43百万円)と改善いたしました。

【事業種類別セグメントの業績】

建設関連事業

国内の建機レンタルは、昨年来の工事量激減に伴い全国的に価格競争がこれまで以上に激化して消耗戦の様相を呈しております。当社グループでは、グループ会社を一体化した提案型営業などを積極的に展開し、また、新型省エネ機を増強するなど建機レンタル資産構成の再構築・適正化を図り、各地で地域

シェアを伸長させるべく努めました。この結果、同事業分野におけるレンタル売上高の対前年同期比は13.7%の二桁増となりました。地域別対前年同期比は、グループ力を発揮できた北海道地区で51.7%増と大きく業績を伸ばしたほか、東北地区は3.0%増と一昨年同期並まで回復し、民需の途切れた関東地区(10.0%減)、近畿中部地区(6.9%減)、九州沖縄地区(11.3%減)の減収分を補完することとなりました。

また、同事業分野における販売売上高は、中古建機市況が世界同時不況以前の水準に回復したことを背景に、計画どおりの売却を進め得たことから対前年同期比21.2%増と順伸びしました。

一方、海外子会社は、業績に占める割合が些少でありますものの、なかでも上海金和源グループ(上海金和源設備租賃有限公司、上海金和源建设工程有限公司)は上海市のインフラ整備、万博需要対応ほか、天津でも営業を展開するなど好調に推移しており、業績を伸長させております。

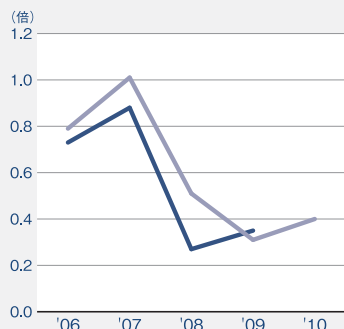
これらの結果、建設関連事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は346億54百万円(対前年同四半期比15.4%増)、営業利益は32億19百万円(同243.7%増)と計画を大きく上回る結果となりました。

グラフで見る5年間(連結)

■ = 第2四半期累計(中間) ■ = 期末 ■ = 第2四半期累計(中間) ■ = 期末

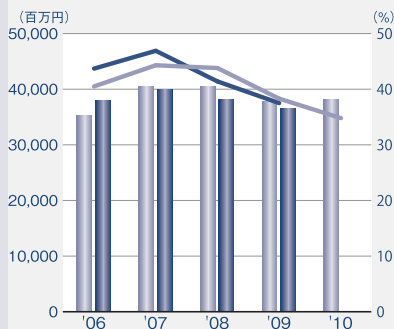
株価純資産倍率(PBR)

$PBR = ROE \times PER$



純資産 自己資本比率

$自己資本比率 = \frac{自己資本}{総資産}$



自己資本利益率(ROE)

$ROE = \frac{当期純利益}{自己資本}$
 $= \frac{一株当たり当期純利益(EPS)}{一株当たり純資産(BPS)}$



鉄鋼関連事業

北海道内の鉄鋼製品需要は、建機レンタル同様に経済対策関連以外は極めて少なく、建築資材の取り扱いを強化するなど実需確保に努力いたしましたが、第2四半期連結累計期間の売上高は21億29百万円(同8.9%減)、また、鉄鋼メーカーの値上げ分を価格に転嫁しきれず、営業損失は2百万円(前年同四半期は営業損失3百万円)となりました。

情報通信関連・その他事業

情報通信関連事業については、企業の開発関連費の縮減により、パソコンレンタルの顧客数が減少したことから、商品売上の大口成約があったもののレンタルの減収に抗えませんでした。一方、技術者派遣事業は事業開始から間もない状況ですが、

企業の研究開発事業の回復傾向もあり順調に推移しました。

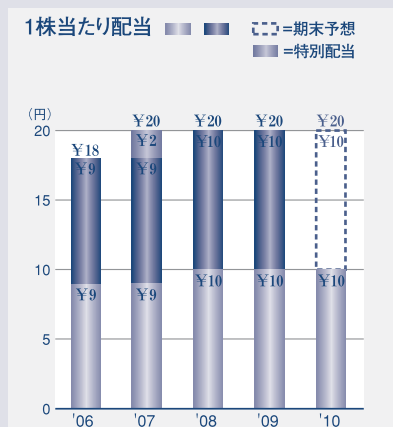
これらの結果、当事業の第2四半期連結累計期間の売上高は3億58百万円(同57.8%増)、また、営業利益は3百万円(同76.3%減)となりました。

【特記すべき事業展開と拠点新設閉鎖の状況】

- (1) 当社の当第2四半期連結累計期間における国内拠点の新設閉鎖はありませんでした。
- (2) 上述の上海金和源グループ(上海金和源設備租賃有限公司、上海金和源建设工程有限公司 本社:中国上海市)のほか、SJ Rental, Inc.(本社:米国準州グアム)、(株)カナモトエンジニアリング(本社:東京都港区)の計4社を、第1四半期連結会計期間より連結対象子会社としております。

通期業績予想の修正理由

当社グループにおける下期につきましては、第3四半期が国家予算の新年度開始と重なり建設需要が少ないため、従来から上期と比較すると下期の業績は大きな進捗は見られない傾向があります。特に今年度は上期にあった経済対策関連工事も終焉を迎え、また今夏は参院選もあるなど、地方での建設需要は大きく毀損するものと想定されます。民需も少なく公共事業も大幅に削られた地方における建機レンタルは、需要減による競争の激化、それに伴う単価下落など利益確保が困難な状態が引き続くものと考えられます。また、大都市圏など都市部における民需の立ち直りも未だその動きが見られず、下期の動向は極めて不透明と言わざるを得ません。第2四半期までの業績結果に比べてやや保守的な通期業績予想となっているのは、これら厳しい経営環境を考慮したためです。



*2007年10月期の期末配当11円のうち2円は増収益による特別配当です。

■ 連結財務諸表

連結損益計算書(累計)

(単位:百万円)	第45期第2四半期 (2008.11.1~2009.4.30)	第46期第2四半期 (2009.11.1~2010.4.30)
① 売上高	32,590	37,142
売上原価	23,241	25,144
売上総利益	9,348	11,998
販売費及び一般管理費	8,427	8,802
② 営業利益	921	3,195
営業外収益	183	223
営業外費用	311	494
③ 経常利益	793	2,924
特別利益	29	291
特別損失	655	173
税金等調整前四半期純利益	168	3,042
法人税、住民税及び事業税	402	1,561
法人税等調整額	△183	△73
少数株主利益	93	38
④ 四半期純利益	△143	1,515

連結キャッシュ・フロー計算書

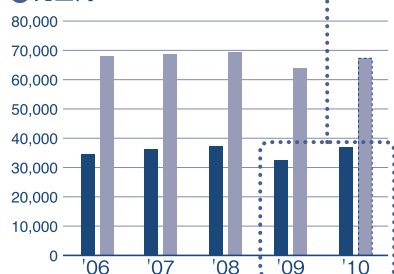
(単位:百万円)	第45期第2四半期 (2008.11.1~2009.4.30)	第46期第2四半期 (2009.11.1~2010.4.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,647	5,575
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,287	729
財務活動によるキャッシュ・フロー	587	1,346
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	2
現金及び現金同等物の増加額	947	7,654
現金及び現金同等物の期首残高	17,566	14,086
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	24	—
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	185
現金及び現金同等物の四半期末残高	18,538	21,925

Point

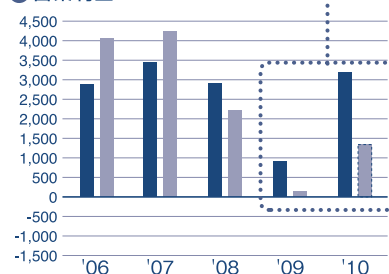
昨年来の工事量激減やレンタル価格の競争激化など厳しい経営環境が続いておりましたが、連結売上高は対前年同期比14.0%増となりました。主要因は、北海道地区の業績の伸長、中古建機市場の価格回復などです。また、営業利益についてはカナモト本体の回復が大きな要因ですが、国内外の連結子会社において増益を確保している子会社があったことも収益改善の要因です。なお、連結子会社の営業利益を単純合算すると676百万円となっております。

■ 第2四半期 ■ 通期 ◻ 予想値 単位:百万円

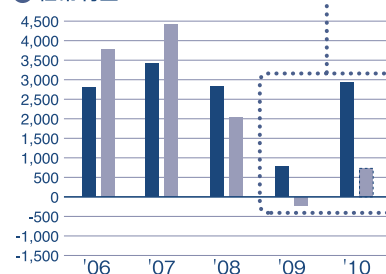
① 売上高



② 営業利益



③ 経常利益



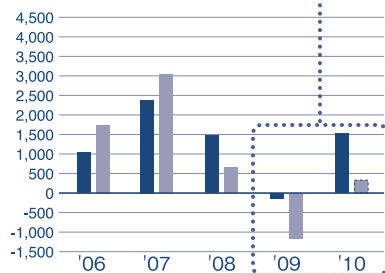
連結貸借対照表

(単位:百万円)	第45期第2四半期末 (2009.4.30)	第46期第2四半期末 (2010.4.30)
(資産の部)		
流動資産	34,523	38,832
固定資産	63,261	69,028
有形固定資産	56,869	63,675
無形固定資産	853	768
投資その他の資産	5,538	4,584
⑤ 資産合計	97,784	107,860
(負債の部)		
流動負債	30,122	41,390
固定負債	29,839	28,344
負債合計	59,962	69,735
(純資産の部)		
株主資本	37,311	37,223
資本金	9,696	9,696
資本剰余金	10,960	10,960
利益剰余金	16,677	16,590
自己株式	△23	△24
評価・換算差額等	140	314
その他有価証券評価差額金	140	333
為替換算調整勘定	—	△18
少数株主持分	370	587
⑥ 純資産合計	37,822	38,125
負債純資産合計	97,784	107,860

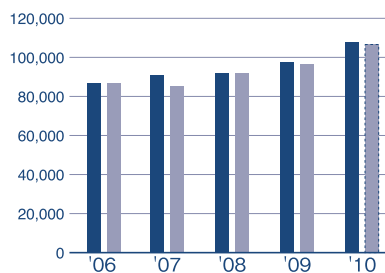
Point

営業・整備・フロントが一体となった提案型営業を展開した結果、建機レンタル収入が大幅増進し、1,515百万円の純利益となりました。
 なお、前年同期は特別損失として投資有価証券評価損586百万円を計上したことなどから、143百万円の純損失でした。

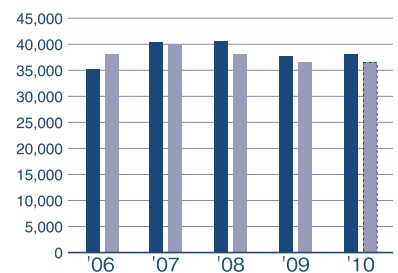
④ 四半期(当期)純利益



⑤ 総資産



⑥ 純資産



カナモトグループに参画する企業の取扱商品をご紹介します。今回は株式会社カナテックのバイオ式生ごみ処理機「マジックバイオくん」と強力な新商品として期待される「トレーラーハウス」をピックアップ。お客様の活用事例も交えてレポートします。

Lineup①マジックバイオくん(活用事例:トヨタ自動車北海道株式会社様)

環境配慮型商品の広がり

バイオ菌による処理で生ごみを85~90%も減量化する「マジックバイオくん」。環境負荷軽減にもつながるこのエコ商品の活躍の場が少しずつ広がっています。小誌49号でもユーザーレポートを掲載しましたが、今回も新たなお取引様の活用事例をご紹介します。2009年7月に導入していただいたトヨタ自動車北海道株式会社様(苫小牧市宇勇弘)です。



トヨタ自動車北海道(株)様の社員食堂に設置されたマジックバイオくん

食品リサイクルに対する意識の高まり

「自然豊かな北海道における環境保全活動に積極的に協力する」との環境方針が掲げられている同社では、以前から環境に配慮した生ごみ処理機の導入を検討されていました。「マジックバイオくん」を採用された決め手は、その“手軽さ”とのこと。残渣の処理は月1回程度、バイオ菌の交換も年1回とメンテナンスの手間がほとんどかからず、ごみを投入してスイッチを入れるだけという操作の簡単さもポイントとなり、レンタルでの導入という当初予定から購入での導入に変更されるほどご評価いただきました。

3,000名超の従業員の方々が利用される同社の社員食堂では、調理くずや食べ残し(生ごみ)処理後の残渣を使って堆肥を生成し、敷地内の緑化に活用されています。導入により生ごみの排出も減少するなどの副次効果もあり、社員食堂で働かれている方々の食品リサイクルに対する意識もさらに高まったとおっしゃっていただきました。

Lineup②トレーラーハウス

用途が広いトレーラーハウスの実力

“仮設ユニットハウスのカナテック”の新商品「トレーラーハウス」。新しい発想で開発され、住宅、セカンドハウスから、事務所や店舗、宿泊施設といった商業用まで幅広い用途があり、使用後は自動車と同様に中古売却もできます。もちろん公営の電気・水道・下水道などのライフラインも利用できます。「移動可能な家」だから設置場所を選びません。

トレーラーハウスとは

起動装置を備えない車両で、自動車などで目的地まで牽引し、住宅や事務所・店舗として使用するもの。公営の電気や水道、下水道サービスを受けられるものも多く、「タイヤの付いたプレハブ住宅」ともいわれています。

幸先のいいスタート、期待される今後の展開

カナテックが当商品の販売に取り組みはじめたのは2009年で、同年12月に社団法人日本トレーラーハウス協会の賛助会員に加入させていただきました。まだ取扱を開始したばかりですが、早くも神奈川県横浜市のフットサルコートのクラブハウスとして導入していただくなど、今後の展開にも期待できそうです。



トレーラーハウス2連棟(設置前)



フットサルコートのクラブハウス(設置後)

またカナテックでは全国各地の観光地におけるお土産店舗や簡易別荘などにも注目しているとのこと。同社は、こうした需要も含めさまざまな場所で活用していただけるよう、日々、技術向上と営業強化に努めています。

お客様のご要望に応えられる製品をラインナップするカナテック。特別注文も承っています。

詳しくは<http://www.kanamoto.co.jp/kanatech/>をご覧ください。

株価チャート (週足)



株価および売買高 (東証分のみ。単位:円、出来高は千株)

	始 値	高 値	安 値	終 値	出来高
2009年6月	413	517	400	504	1,596
7月	484	500	459	490	1,149
8月	510	510	455	457	612
9月	457	458	389	416	878
10月	413	413	381	389	2,015
11月	380	383	308	319	850
12月	334	398	326	395	1,124
2010年1月	396	446	389	405	877
2月	405	426	389	397	626
3月	408	444	395	443	865
4月	450	514	448	462	1,553
5月	450	450	371	411	1,235

株主メモ (2010年4月30日現在)

資 本 金	96億9,671万円(払込済資本金)
発 行 株 数	32,872千株(発行済株式の総数)
事 業 年 度	11月1日から翌年10月31日まで
株 主 総 会	毎年 1月中
同総会議決権行使株主確定日	毎年 10月31日
期末配当金受領株主確定日	毎年 10月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年 4月30日
公 告 の 掲 載	当社ホームページ、日本経済新聞*

*当社公告の掲載につきましては、当社ホームページ(<http://www.kanamoto.co.jp>)または<http://www.kanamoto.ne.jp>)に掲載いたします。
なお、やむを得ない事由により、ホームページに公告を掲載することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

同 事 務 取 扱 場 所

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号

同 郵 便 物 送 付 先 及 び 電 話 照 会 先

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂7丁目10番11号
電話 0120-232-711(フリーダイヤル)


(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様のご住所・お名前の変更、単元未満株式の買取請求・買増請求、配当金振込指定、その他各種お手続きにつきましては、原則として、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ります。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
- 証券会社の口座ではなく、特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行(連絡先左記)で承ります。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取り扱いいたします。
- 郵送物の発送と返戻、取扱期間経過後の配当金に関するご照会は、三菱UFJ信託銀行(連絡先左記)で承ります。

● 編集後記 ●

上方修正となった第2四半期決算。しかし、通期予想は期初計画とほとんど違わぬまま。海外向け中古建機販売は堅調な回復振りですし、加えて、上海金和源は沿海部を中心に着々と侵攻中です。些か厳しく見過ぎなかもしれません。とはいえ、主戦場の国内では、今秋以降、民主党政権の緊縮予算が影響し始めるので厳しく見ざるを得ないのです。

小誌が皆様のお手元に届く頃、参院選も開票を迎えていることと思います。友愛も長続きしませんでした。第三の道というのも、昔のブレア元英首相の言葉。まあ、誰が首相になっても一向に変わらないのが日本の政治ですが、日本は経済で名を馳せた国であります。そして日本の文化は着々と世界に広がっています。内々の鏝迫り合いではなく、そろそろ国を挙げて日本を開花させる政治、脳道ではなく本筋を貫く政治に期待をしたい処です。

何れにせよ国もカナモトもここが正念場。通期も上方修正が叶いますよう頑張りますので、カナモトのタニマチの皆様、引き続きご支援を! 

r100
古紙配合率100%再生紙を使用

PRINTED WITH
SOY INK

本誌は、再生紙と
大豆油インキを使用しております。



株式会社 **かなもと**

(東証一部・札証 証券コード9678)

〒060-0041 札幌市中央区大通東3丁目1番地19

Tel: (011) 209-1600 (大代表)

www.kanamoto.co.jp